

横浜市議会議員選挙(令和5年4月9日執行 統一地方選挙)の 投票参加状況調査結果をお知らせします

横浜市選挙管理委員会では、有権者の投票参加行動や政治・選挙への意識等の実態を把握し、今後の選挙行政や啓発事業等を行っていくうえでの基礎資料とするため、昭和55年から主に市長選挙や統一地方選挙が行われる度に投票参加状況調査を実施しています。

このたび、**令和5年4月9日に執行された横浜市議会議員選挙**における「投票参加状況」や「政治意識」について、調査結果がまとまりましたので、概要をお知らせします。

なお、調査結果については、横浜市ホームページにも本日11月15日から掲載します。

〈調査結果のポイント〉 ※これらの調査結果については、今後の選挙啓発等の参考といたします。

※「前回調査」は、令和3年調査（市長選後）を指します。

- 1 市政へ「関心あり」と回答した人は**67.7%**で、**前回調査(70.5%)より2.8ポイント減少**。年代が下がるほど、「関心あり」の割合は低くなっている。
- 2 選挙を知った方法は、「**ポスター掲示場のポスターから(55.5%)**」が**前回調査(40.3%)から15.2ポイント増で最多**(前回3位→今回1位)。2位は「テレビ・ラジオの報道から(44.2%)」で前回から23.2ポイントの減(前回1位→今回2位)。前回調査2位であった「新聞・雑誌等の報道から」は8.1ポイント減の32.3%で5位となった。
- 3 横浜市選挙管理委員会が行った様々な**投票参加への呼びかけ**について、**印象の強かったものは「自治会・町内会の掲示板ポスター(23.5%)」が最多**。前回調査(14.8%)から8.7ポイント増(前回2位→今回1位)。前回調査で最多であった「投票のご案内(23.2%)」は4.2ポイント増で2位となった。(前回1位→今回2位)
- 4 **候補者選定の基準**について半数を超える**51.9%が「政策や主義・主張」を選択**。前回調査(54.0%)と比較すると2.1ポイントの減。
- 5 **投票しなかった理由**について、「**投票したい候補者がいなかったから**」と回答した人が**35.1%と最多**。次いで「仕事など選挙より重要な予定があったから(23.2%)」「あまり関心がなかったから(21.9%)」の順。 ※今回調査より複数選択可に変更
- 6 **投票に行こうと思う条件**について、「**投票したいと思える候補者がいたら(52.8%)**」が**最多**。「関心のあることが選挙の争点になっていたら(29.3%)」「候補者の意見や人柄などをもっとよく知る方法があったら(26.9%)」の順。

〈調査の概要〉

- 1 調査地域：横浜市全域
- 2 調査対象：横浜市内の有権者 6,500人
- 3 抽出方法：選挙人名簿による無作為抽出
- 4 調査方法：調査票を郵送し、郵送回答又はインターネット回答により回収
- 5 調査期間：令和5年5月24日～6月21日
- 6 回収結果：有効回答2,304票(回収率35.4%)
- 7 掲載HP：<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/senkyo/data/survey/survey20.html>



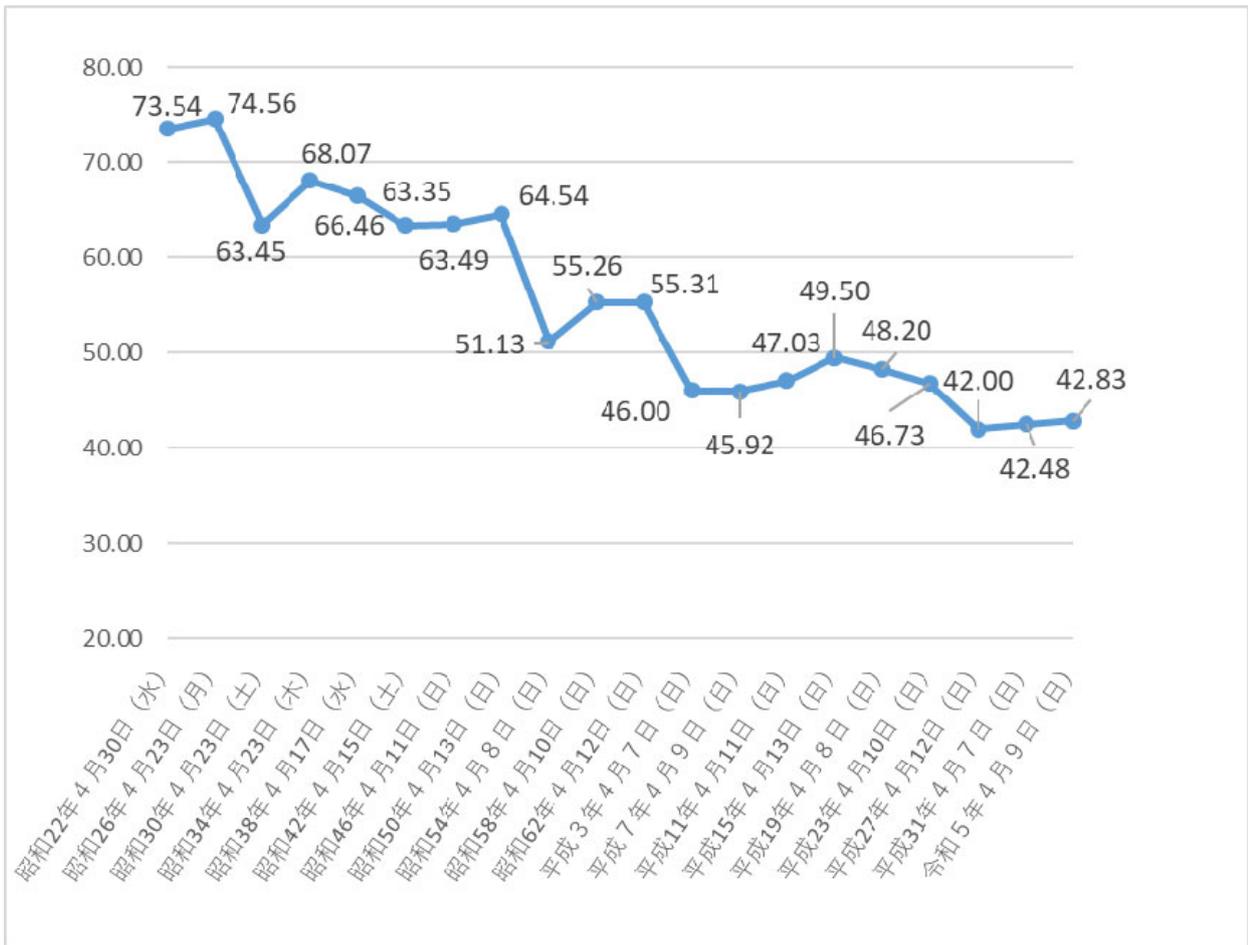
お問合せ先

選挙管理委員会事務局選挙課 選挙課長 廣澤 宣幸 Tel 045-671-3333

参考

[横浜市議会議員選挙投票率の推移]

(%)



[令和5年4月9日執行 市議会議員選挙 年齢別投票率(5歳階級別)] (%)

